

👉 ~ 2 0 1 6 ~ 👈

映画 聲の形

A S I L E N T V O I C E

映画で考える 「いじめと、向き合うこと」

対象：中学生以上

名前

年 組

1 いじめは、だれの問題？

小学生のとき、耳の聞こえない転校生・硝子をいじめていた将也。やがて自分がいじめられる側になり、心を閉ざしたまま高校生になります。この映画は、いじめを「した側」が過去と向き合う物語です。

👉 「伝えたい」を、あきらめない。

🔑 「×印」の意味

高校生の将也には、周りの人の顔に「×（バツ印）」がついて見えます。人と目を合わせられず、心を閉ざしていることを表しています。人と関わり直すたびに、×印が一つずつはがれていきます。

※つらい気持ちになったときは、先生や家族、スクールカウンセラーに話してください。「24時間子供SOSダイヤル」(0120-0-78310) もあります。

2 いじめを考える4つの立場

■ ① した側

過去は消せない。それでも、向き合う道を選べる。

■ ② された側

「自分がいるせいで」と思いこんでしまうことがある。

■ ③ 見ていた側

止めなかったこと、加わったことには、どんな意味がある？

■ ④ 関わり直す

許すかどうかは相手が決める。それでも、関わる努力はできる。

3 映画『映画 聲の形』とは

あらすじ

小学6年生の将也のクラスに、耳の聞こえない少女・硝子が転校してきます。硝子は筆談ノートで話そうとしますが、将也たちはからかい、いじめはエスカレートしていきます。高校生になった将也は、手話を学び、硝子に会いに行きます。

いろいろな「伝え方」

手話は、手や表情を使って話す、独自の文法を持つ言語です。筆談、補聴器など、伝える方法はいろいろあります。でも、耳が聞こえる登場人物たちも、本当の気持ちをうまく伝えられずにいます。

見るときの心がまえ

とてもつらい場面もあります。無理をせず、気分が悪くなったら先生に伝えてください。

4 いじめと向き合うワーク

 映画を観て（またはあらすじから）、考えて書こう

① いちばん心に残った場面と、その理由は？

② 「見ていた側」の人には、何ができたと思う？

③ 耳が聞こえる人どうしても、気持ちが伝わらないのはなぜ？

④ 気持ちを伝え合うために、自分にできる工夫は？

5 ふりかえり

いじめは、_____みんなの問題だと分かりました。これから、だれかが困っているのに気づいたときは、_____をしたいです。

 「『伝えたい』を、あきらめない。」

先生・保護者へ：『映画 聲の形』は日本で映倫Gですが、いじめの場面や、登場人物が自ら命を絶とうとする場面が含まれます。本資料は中学生以上を想定しています。上映前に場面を確認し、生徒の心理的負担に配慮してください。相談窓口もあわせて伝えてください。

© 2026 FilmEdu AI / この教材はAIを活用して作成しています。内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。